私の将来の希望

小学校6年　仲山京子さん

私の将来の希望、そして夢は俳優になることです。二年生のときに演技をするのが楽しくていつも友だちとドラマのまねをして遊んでいました。そのころから私は絶対に俳優になるんだと決めていました。

でも、五年生のころテレビの影響でナースになりたいと思うこともあったけれど、私は看護婦より俳優の方が向いていると思うので私の将来の夢は俳優になることに決まりました。

でも、人の命を助けることも大事だし人を楽しませることも必要だと思います。

でももし、看護婦になって人の命を失うようなことがあったら自分自身もう何も考えられなくなると思います。

だから、俳優になりたいと思います。

人を楽しませること、仲間と演技が出来るという楽しさ、そして、自分のやりがいがある仕事で私にあっている仕事は俳優というものしかないと思いました。

イベントを多く行って楽しい村に

中学校1年　小山田綾さん

今でも月潟村では、沢山のイベントが行われていますが、これからは、もっと違ったことをいろいろ行っていくといいと思います。

イベントといっても沢山の種類がありますが、月潟の人だけでなく、近隣の村の人々が沢山来るようなイベントを考えたり、小さな子からお年寄りまで楽しめるようなスポーツ大会などがいいと思います。

例えば、私の考えるイベントとして、ユニークなスポーツ大会があります。

スポーツの種類は大衆的なものがよく、そして、いくつかのスポーツを複合させるといいと思います。

マラソンと自転車のロードレースを組み合わせたトライアスロン的なものや、中ノ口川を下るカヌー競技など、ほかにも沢山考えられると思います。

月潟村だけでは、長い距離のレースは不可能だから、近隣町村と共催したり、協力してもらったり、広域的な取り組みが必要になってくると思います。

また、こういったイベントには、子供たちや若い人たちのアイディアや活動が欠かせません。そこで、どんなイベントを行ってほしいか、小学生・中学生などからアンケートを活発にとり、それを利用していってもいいと思います。

それから、今までのイベントの企画や運営などは公民館のみなさんに頼っていたと思いますが、これからは、村民全員でやっていくような感じになれば一番いいと思います。

ただ、どんどん新しいイベントを行っていって、今まで行ってきたイベントがなくなってしまわないように、しなければいけないと思います。

イベントは、新しいものを考えることも大切ですが、古くからある伝統的な行事に改善を加えて、新しい感じに変えていくことも大切です。

伝統あるものを大事にしながら、新しいものも計画していく、この姿勢が、これからの月潟村に必要な一面ではないかと思います。

これからは、イベントの計画などを工夫してやっていき、村民が今以上に楽しめて、村のために役に立つことを考えていくといいと思います。

村民みんなが、今度はどんな楽しいイベントが行われるのかと、楽しみにしながら生活できたらすばらしいと思ったからです。

このようなイベントを行っていくのは、とても大変だと思いますが、本当に実現できたらとても楽しいし、いろいろな面で役に立つと思います。

月潟村の国際交流を考える

中学校2年　大関香穂里さん

今は国際化の時代といわれますが、国際化とは一体どういうことなのでしょうか。

私が思うには、一つの国、一つの県、一つの町や村にとらわれず、広く世界の人々と交流しようとする時代のことだと思います。

月潟村も好き嫌いにかかわらず、国際化の問題を考えなければならない状況に置かれていると思います。現実にブラジルの二世や三世の人が沢山おいでになっているし、私の妹の所に、友達として遊びに来ているブラジルの子もいます。

昨年の村民運動会でブラジルの人々が出場したのは、とてもすばらしいことだったと思います。これからもブラジルの人たちに、もっと色々な月潟村の行事に出て欲しいと思います。

そこで私の提案ですが、ブラジルの人のために日本語学級を開いたり、月潟の人のためにポルトガル学級を開いたりして、楽しみながらブラジル人と交流を深めたいです。このような学級を開ければ、ブラジルの人たちが買い物などのどうしても日本語が必要なときに、少しでも日本語が話せるということは、とても心強いと思います。だから、生活にはあまり不自由なことがなくなるということです。

今、話題になっている旧ソビエト連邦のことについて、新聞に載っていた例をいうと、今のロシア共和国連合はとても物価の高い苦しい生活ですが、その中から旧ソビエト連邦のオリンピック女子体操選手の金メダリストをウクライナ共和国から招き、泉佐野市内の小学校を巡回し、器械体操の授業を教えて、大人にはエアロビクスダンスを週二回教えているそうです。ソ連では、常に目的・科題を強制されて指導してきたが、日本ではその点自由にのびのびと教えることができて楽しいということが書かれていました。しかも、郷里のウクライナ共和国に比べて日本は格段に豊かで、日本での生活も楽しんでいるとのことです。彼女がいうには、日本で教えてみると才能のある生徒もかなり居るということです。ただ、練習時間が旧ソビエト連邦と比べて、勉強の関係で三時間は少なく、日ソの教育事情の違いに同情していました。バルセロナオリンピックの代表権を失ってしまった日本女子選手は、トップとの技術の差はそれほどないのにみんなあと一歩、何かが足りない。その何かが何なのかは、わからないがと彼女が話したことが書いてありました。

私たちの居る新潟県や新潟市は、旧ソビエト連邦とはとても仲がいいそうですので、月潟村も、彼女のようなすばらしい先生が講師として、招くことができたらどんなにかすばらしい国際交流が私たち子供たちにも芽ばえることだと思います。もし、このようなことが将来実現すれば、もしかすると月潟村にもオリンピック選手が育つかもしれません。

それに、日本海時代といわれているとおり、ソビエト連邦の解体に伴い、ロシア共和国連邦との貿易がさかんになると書かれてありました。だから、ロシア語の勉強ができれば、一石二鳥の勉強になると思います。

体操や文化や言葉を、お互いに教え合えることができるように、先生方や村長さんに努力していただきたいと思っています。

※今回掲載できなかったものは、来月号で紹介したいと思います。みなさん、夢が実現できるようにがんばってください。

小林昭二さん（月潟）将棋で春季戦を連覇

村民囲碁将棋大会

村民春季囲碁将棋大会が二月二日に行われ、小林昭二さん（月潟）が将棋A級の部で春季戦を連覇。また、囲碁の部では広野石松さんが夏に引き続き優勝されるなど、ベテラン勢の奮闘が目についた大会でした。結果は左記のとおりです。

（敬称略）

◎将棋A級の部

優勝　小林　昭二
準優勝　青木　茂
三位　竹石　正勝
敢闘賞　曽屋　弘

◎将棋B級の部

優勝　本間　勇
準優勝　山際　弘治
三位　斉藤　団一
敢闘賞　児玉　春雄

◎囲碁の部

優勝　広野　石松
準優勝　佐野　博行
三位　植村　脩
敢闘賞　若狭甚三郎

柔道鏡開き

スポーツ少年団

一月十九日、恒例の柔道鏡開きが行われました。今年最初の練習とあってか、練習よりも餅つきの方を楽しみにしていたような暖かい一日でした。